



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年2月7日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4536 URL <https://www.santen.com/ja/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 伊藤 毅

問合せ先責任者(役職名) IR室 室長 (氏名) 佐久間 ギヨム TEL 06-7664-8621

四半期報告書提出予定日 2023年2月9日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

IFRS(フル)ベース

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	199,786	2.0	△10,147	-	△11,593	-	△16,088	-	△16,064	-	△6,664	-
2022年3月期第3四半期	195,801	7.7	26,380	△2.0	25,673	△3.5	19,296	△7.4	19,349	△7.9	22,803	△1.0

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△41.13	△41.13
2022年3月期第3四半期	48.39	48.32

#### コアベース

	売上収益		コア営業利益		コア四半期利益		親会社の所有者に 帰属する コア四半期利益		基本的1株当たり コア四半期利益	希薄化後1株当たり コア四半期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	199,786	2.0	27,153	△21.4	21,154	△18.2	21,181	△18.2	54.19	54.11
2022年3月期第3四半期	195,801	7.7	34,553	△5.1	25,865	△8.7	25,907	△8.7	64.80	64.70

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	420,141	300,264	300,927	71.6	785.28
2022年3月期	459,976	336,844	337,488	73.4	843.60

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	16.00	-	16.00	32.00
2023年3月期	-	16.00	-	-	-
2023年3月期(予想)	-	-	-	16.00	32.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

IFRS(フル)ベース

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	272,000	2.2	△6,500	-	△8,500	-	△15,500	-	△40.01

#### コアベース

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		基本的1株当たり コア当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	272,000	2.2	41,000	△11.5	30,800	△12.5	79.50

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

- IFRS(フル)ベースの数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明(P6参照)」をご覧ください。
- 2022年10月4日開催の取締役会において、自己株式の消却について決議し、2022年10月31日に消却しました。また、2022年11月8日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議しました。2023年3月期の連結業績予想における「基本的1株当たり当期利益」及び「基本的1株当たりコア当期利益」については、当該自己株式の取得及び消却の影響を考慮しています。なお、当該自己株式の取得及び消却については添付資料「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項(P16参照)」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	388,219,354株	2022年3月期	400,694,754株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	4,775,109株	2022年3月期	423,668株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	390,707,294株	2022年3月期3Q	399,708,261株

（注）期末自己株式数には、株式報酬制度に係る信託が保有する当社株式（2022年3月期 16,271株、2023年3月期3Q 44,551株）が含まれています。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年2月7日（火）に証券アナリスト、機関投資家向けの第3四半期決算カンファレンスコールを開催する予定です。この説明会で使用する資料は、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	8
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	9
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	10
(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書 .....	10
(2) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	11
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	13
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	15
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	16
(継続企業の前提に関する注記) .....	16
(その他の費用) .....	16
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	16
(重要な後発事象) .....	16
3. 連結参考資料 .....	17
(1) 主要製品売上収益 .....	17
(2) 主要通貨為替レート .....	17
(3) 開発状況 .....	18
(4) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費並びに研究開発費 .....	20

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第3四半期連結累計期間の業績の状況

(ア) IFRS（フル）ベース

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	195,801	199,786	3,985	2.0%
営業利益（△は損失）	26,380	△10,147	△36,528	－%
四半期利益（△は損失）	19,296	△16,088	△35,384	－%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益（△は損失）	19,349	△16,064	△35,413	－%

[売上収益]

前年同期と比べ2.0%増加し、1,998億円となりました。

主力の医療用医薬品事業は、中国で新型コロナウイルス対策による厳格な防疫措置や解除後の大幅な感染者数増加等の影響を強く受けたものの、日本では薬価改定の影響を最小限に止め、アジア・EMEAでは主力製品が堅調に推移したこと、また為替影響もあり、前年同期と比べ1.5%増加し、1,856億円となりました。

売上収益の内訳は次のとおりです。

上段：金額

下段：対前年同期増減率、( )は為替影響を除いた対前年同期増減率

(単位：百万円)

	日本	中国	アジア	EMEA	米州	合計
医療用医薬品	111,214	16,050	17,080	38,834	2,426	185,604
	△3.9%	△20.9%	29.5%	22.8%	17.4%	1.5%
	(－%)	(△31.2%)	(17.6%)	(11.6%)	(△0.7%)	(△2.7%)
一般用医薬品	7,326	195	637	－	－	8,159
	0.6%	－	38.3%	－	－	5.4%
医療機器	2,452	29	3	1,737	357	4,578
	6.2%	△0.9%	－	45.2%	12.1%	18.8%
その他	1,304	51	91	－	－	1,446
	8.9%	158.9%	110.5%	－	－	14.7%
合計	122,295	16,325	17,812	40,571	2,783	199,786
	△3.4%	△19.8%	30.0%	23.6%	16.7%	2.0%
	(－%)	(△30.1%)	(18.0%)	(12.5%)	(△1.7%)	(△2.0%)

(注) 外部顧客に対する売上収益を表しています。

顧客の所在地をもとに国又は地域に分類しています。なお、アジアには中国を含んでいません。

EMEAは、欧州、中東及びアフリカです。

<医療用医薬品>

◇日本

2022年11月に既存品のジクアス点眼液の製剤改良により点眼回数を1日3回に低減したジクアスLX点眼液の販売を開始するなど、主力品アレジオン点眼液の拡大再算定を含む4%台半ばの薬価改定の影響を最小限に止めたものの、前年同期と比べ3.9%減少し、1,112億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	61億円	（対前年同期増減率	△ 8.7%）
「タプコム配合点眼液」	21億円	（対前年同期増減率	△ 3.9%）
「コソプト配合点眼液」	37億円	（対前年同期増減率	△18.3%）
「エイベリス点眼液」	30億円	（対前年同期増減率	+17.8%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液 <sup>※1</sup> （P5参照）」	121億円	（対前年同期増減率	+17.0%）
・抗アレルギー点眼剤領域			
「アレジオン点眼液 <sup>※2</sup> （P5参照）」	120億円	（対前年同期増減率	△16.3%）
・網膜疾患治療剤領域			
「アイリーア硝子体内注射液 <sup>※3</sup> （P5参照）」	547億円	（対前年同期増減率	△ 2.2%）

◇中国

新型コロナウイルス対策の厳格な防疫措置や解除後の大幅な感染者数増加等の影響を受け、円換算ベースで前年同期と比べ20.9%減少し（為替影響を除いた成長率は△31.2%）、161億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	8億円	（対前年同期増減率	+ 8.6%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	22億円	（対前年同期増減率	△16.3%）
「ヒアレイン点眼液」	50億円	（対前年同期増減率	△28.7%）
・眼感染症治療剤領域			
「クラビット点眼液」	43億円	（対前年同期増減率	△22.9%）

◇アジア（中国除く）

主力品の普及促進により、円換算ベースで前年同期と比べ29.5%増加し（為替影響を除いた成長率は+17.6%）、171億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	17億円	（対前年同期増減率	+10.8%）
「タプコム配合点眼液」	8億円	（対前年同期増減率	+32.9%）
「コソプト配合点眼液」	45億円	（対前年同期増減率	+16.9%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	14億円	（対前年同期増減率	+ 9.6%）
「Ikervis（アイケルビス）」	12億円	（対前年同期増減率	+46.0%）
・眼感染症治療剤領域			
「クラビット点眼液」	18億円	（対前年同期増減率	+45.0%）

◇EMEA

主力製品の各国市場での伸長により、円換算ベースで前年同期と比べ22.8%増加し（為替影響を除いた成長率は+11.6%）、388億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	60億円	（対前年同期増減率	+16.0%）
「タプコム配合点眼液」	35億円	（対前年同期増減率	+34.0%）
「コソプト配合点眼液」	99億円	（対前年同期増減率	+23.4%）
「トルソプト点眼液」	26億円	（対前年同期増減率	+14.6%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「Ikervis（アイケルビス）」	43億円	（対前年同期増減率	+11.5%）
「Cationorm（カチオノーム）」	21億円	（対前年同期増減率	+31.3%）
・抗アレルギー点眼剤領域			
「Verkazia（ベルカジア）」	6億円	（対前年同期増減率	+41.2%）

◇米州

円換算ベースで前年同期と比べ17.4%増加し（為替影響を除いた成長率は△0.7%）、24億円となりました。

<一般用医薬品>

前年同期と比べ5.4%増加し、82億円となりました。

「サンテメディカルシリーズ」「サンテボーティエシリーズ」「ソフトサンティアシリーズ」などの高価格帯品に加え、スイッチOTC製品「ヒアレインS」、「サンテFXシリーズ」、前連結会計年度に販売を開始した点眼型洗眼薬「ウェルウォッシュアイ」に注力しています。

<医療機器>

EMEAでのプリザーフロ マイクロシヤントの販売が好調に推移し、前年同期と比べ18.8%増加し、46億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

「レンティス コンフォート」	10億円	（対前年同期増減率	△ 5.6%）
「プリザーフロ マイクロシヤント」	17億円	（対前年同期増減率	+45.9%）

<その他>

その他の売上収益は14億円となりました。サプリメント製品の販売、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものです。

[営業損失]

売上総利益は、前年同期と比べ1.1%増加し、1,143億円となりました。

IFRS（フル）ベースの販売費及び一般管理費は、前年同期と比べ8.6%増加し（為替影響を除いた対前年同期増減率は+1.0%）、655億円となりました。

研究開発費は、前年同期と比べ15.3%増加し（為替影響を除いた対前年同期増減率は+5.1%）、217億円となりました。

製品に係る無形資産償却費は、前年同期と比べ0.4%減少し（為替影響を除いた対前年同期増減率は△6.3%）、72億円となりました。これは主に、Merck & Co., Inc.（米国）から2014年に譲り受けた眼科製品に関する無形資産、2015年より欧州で販売を開始した「Ikervis（アイケルビス）」に関する無形資産、2016年のInnFocus, Inc.（米国）買収に伴い取得したプリザーフロ マイクロシヤントに関する無形資産、並びに2020年のEyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）買収に伴い取得した眼科製品に関する無形資産の償却によるものです。なお、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）買収に伴い取得した眼科製品に関する無形資産の償却費について、第2四半期において無形資産の帳簿価額全額を減損処理したため、当第3四半期の計上はしていません。

その他の収益は、5億円となりました。

その他の費用は、306億円となりました。これは主に、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びその傘下の事業会社であるEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る有形固定資産及び無形資産（のれん及び開発製造販売権）の帳簿価額全額を減損処理したことによるものです。

これらにより、IFRS（フル）ベースの営業損失は101億円（前年同期は264億円の営業利益）となりました。

[四半期損失]

金融収益は、10億円となりました。

金融費用は、7億円となりました。

持分法による投資損失は、17億円となりました。これは主にVerily Life Sciences LLC（米国）との合弁会社であるTwenty Twenty Therapeutics LLC（米国）の損益のうち、当社の持分に帰属する金額を計上したものです。

法人所得税費用は、前年同期から19億円減少し、45億円となりました。これは主に、上述のIFRS（フル）ベースの営業利益の減少に伴う税引前四半期利益の減少によるものです。

これらにより、四半期損失は161億円（前年同期は193億円の四半期利益）となりました。

[親会社の所有者に帰属する四半期損失]

親会社の所有者に帰属する四半期損失は161億円（前年同期は193億円の親会社の所有者に帰属する四半期利益）となりました。

※1 ジクアスLX点眼液を含みます。

※2 アレジオンLX点眼液を含みます。

※3 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品です。

（イ）コアベース ※4

（単位：百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	対前年同期増減率
売上収益	195,801	199,786	2.0%
コア営業利益	34,553	27,153	△21.4%
コア四半期利益	25,865	21,154	△18.2%
親会社の所有者に帰属する コア四半期利益	25,907	21,181	△18.2%

[売上収益]

IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

[コア営業利益]

売上総利益について、IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

販売費及び一般管理費は、前年同期と比べ9.6%増加し、655億円となりました。なお、IFRS（フル）ベースからの調整内容として、前第3四半期では企業結合における統合業務等に係る費用を販売費及び一般管理費から控除していましたが、当第3四半期では該当事項はありません。

研究開発費は、IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

以上により、コアベースでの営業利益は、前年同期と比べ21.4%減少し、272億円となりました。

※4 Santenグループでは2015年3月期のIFRS適用を機に、IFRSによる業績（「IFRS（フル）ベース」）から一部の収益及び費用を控除した「コアベース」での財務情報を事業活動自体の収益性を示す指標として開示しています。IFRS（フル）ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する以下の収益及び費用とそれらに係る法人所得税費用を調整し、コアベースを算出しています。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用
- ・持分法による投資損益
- ・販売費及び一般管理費のうち企業買収などに係る費用



② 研究開発活動

<緑内障・高眼圧症領域>

プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体及びβ遮断剤の配合剤STN1011101（DE-111A、一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、中国で2019年1月から第Ⅲ相試験を実施しています。

EP2受容体作動薬STN1011700（DE-117、一般名：オミデネパグ イソプロピル）は、米国で2022年9月に販売承認を取得しました。日本では2018年11月に発売しました。アジアでは2021年2月に韓国で発売し、以降、複数国で順次発売しています。

FP/EP3受容体デュアル作動薬STN1012600（DE-126、一般名：sepetaprost）は、米国で2021年12月に追加の第Ⅱ相試験を終了しました。日本では2022年8月に第Ⅲ相試験を開始しました。欧州では2021年9月から第Ⅱ相試験（探索的試験）を実施しています。

緑内障用デバイスSTN2000100（DE-128）は、日本で2022年7月に上市（ソフトローンチ）しました。欧州では2019年4月に発売しました。アジアでは2021年9月以降シンガポールなどで承認を取得しており、マレーシアで2022年10月に発売しました。

プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体の乳化点眼剤STN1013001（DE-130A、一般名：ラタノプロスト）は、アジアで2022年3月に第Ⅲ相試験を終了しました。欧州では2022年9月に販売承認を申請しました。

ROCK阻害剤STN1013900（AR-13324、一般名：ネタルスジルメシル酸塩）は、日本で2020年11月から第Ⅲ相試験を実施しています。欧州では販売承認を取得済みです。アジアでは順次販売承認を申請しており、タイで2023年1月に販売承認を取得しました。

ROCK阻害剤及びプロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体の配合剤STN1014000（PG-324、一般名：ネタルスジルメシル酸塩／ラタノプロスト）は、欧州で販売承認を取得しており、ドイツで2023年1月に発売しました。アジアでは順次販売承認を申請しており、タイで2023年1月に販売承認を取得しました。

<角結膜疾患（ドライアイを含む）領域>

春季カタルを対象とするSTN1007603（DE-076C、一般名：シクロスポリン）は、既に承認・販売されている欧州、アジア、カナダなどに続き、中国で2022年4月に販売承認を取得し、米国で2022年5月に発売しました。

ドライアイを対象とするSTN1008903（DE-089C、一般名：ジクアホソルナトリウム）は、日本で2022年11月に発売しました。

ドライアイを対象とするSTN1014100（一般名：オロダテロール塩酸塩）は、日本で2023年1月に第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を開始しました。

マイボーム腺機能不全を対象とするSTN1010905（一般名：シロリムス）は、日本で2022年8月に前期第Ⅱ相試験を終了しました。

アレルギー性結膜炎を対象とするSTN1011402（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、日本で2022年10月に第Ⅲ相試験を終了しました。

フックス角膜内皮ジストロフィを対象としてアクチュアライズ株式会社と共同開発契約を締結しているSTN1010904\*（一般名：シロリムス）は、米国、フランス、インドで2022年5月に前期第Ⅱ相試験を開始しました。（\*開発コード（STN1010904）は、第Ⅱ相試験終了時に当社が独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。）

<屈折異常領域>

小児における近視を対象とするSTN1012700（DE-127、一般名：アトロピン硫酸塩）は、日本で2019年8月から第Ⅱ／Ⅲ相試験を実施しています。中国では2022年6月に第Ⅱ／Ⅲ相試験を開始しました。アジアでは2020年4月に第Ⅱ相試験を終了しました。

小児における近視を対象とするSTN1012701（SYD-101、一般名：アトロピン硫酸塩）は、導入元であるSydnexis Inc.（米国）により欧州及び米国で第Ⅲ相試験が実施されています。当社は、欧州、中東及びアフリカ地域における独占ライセンス権を保有しています。

近視を対象とするSTN1013400（化合物名：AFDX0250BS）は、日本で2021年9月に第Ⅰ相試験を終了しました。

老視を対象とするSTN1013600（一般名：ウルソデオキシコール酸）は、米国で2022年12月に前期第Ⅱ相試験を開始しました。日本では2022年4月に第Ⅰ相試験を終了しました。

<その他の領域>

眼瞼下垂を対象とするSTN1013800（一般名：オキシメタゾリン塩酸塩）は、日本で2022年10月に第Ⅲ相試験を開始しました。

※開発コードの附番方法変更に伴い、新開発コード（STNXXXXXXX）及び既存開発コード（DE-XXX）を併記しています。なお、AR-13324及びPG-324はAlcon, Inc.（米国）、SYD-101はSydnexis Inc.（米国）での開発コードです。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、資本及び負債の状況

当第3四半期末の資産は、4,201億円となりました。滋賀プロダクトサプライセンター敷地内における医療用点眼薬製造のための第3棟の増設に伴う有形固定資産の増加などがあった一方、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る無形資産（のれん及び開発製造販売権）の減損に伴う無形資産の減少、営業債権及びその他の債権の減少、並びに配当金の支払及び自己株式の取得による現金の減少などにより前期末と比べ398億円減少しました。

資本は、3,003億円となりました。その他の資本の構成要素の増加などがあった一方、自己株式の取得及び四半期損失等による利益剰余金の減少などにより前期末と比べ366億円減少しました。なお、2022年10月31日に自己株式の消却130億円（12,500千株）を実施しました。

負債は、1,199億円となりました。滋賀プロダクトサプライセンター敷地内における第3棟の設備投資に関する長期借入れによる金融負債の増加などがあった一方、短期借入金の返済等によるその他の金融負債の減少、並びに賞与の支払によるその他の流動負債の減少などにより前期末と比べ33億円減少しました。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ1.8ポイント減少し、71.6%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、285億円の収入（前年同期は312億円の収入）となりました。主に四半期損失161億円、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る無形資産の減損等305億円、減価償却費及び償却費131億円、営業債権及びその他の債権の減少61億円、並びに法人所得税の支払額72億円などによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、236億円の支出（前年同期は232億円の支出）となりました。主に有形固定資産の取得による支出145億円及び無形資産の取得による支出62億円によるものです。また政策保有株式の見直しを加速しており、当第3四半期は1銘柄の投資の売却による収入が15億円ありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、280億円の支出（前年同期は41億円の支出）となりました。長期借入れによる収入156億円がありましたが、主に短期借入金の返済による支出112億円、自己株式の取得による支出179億円、並びに配当金の支払額125億円などによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、前期末と比べ218億円減少し、612億円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の再拡大により中国における業績の進捗が想定より遅延している状況、米州における構造改革費用の追加計上予定等に伴い、2022年11月8日に公表した連結業績予想を次のとおり変更することにしました。

IFRS（フル）ベース

	売上収益	営業利益	税引前 当期利益	当期利益	基本的1株当たり 当期利益
前回発表予想（A） （2022年11月8日公表）	百万円 280,000	百万円 4,000	百万円 3,000	百万円 △5,500	円 銭 △14.20
今回修正予想（B）	272,000	△6,500	△8,500	△15,500	△40.01
増減額（B-A）	△8,000	△10,500	△11,500	△10,000	
増減率（%）	△2.9%	—	—	—	
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	266,257	35,886	35,616	27,189	68.07

コアベース

	売上収益	コア営業利益	コア当期利益	基本的1株当たり コア当期利益
前回発表予想（A） （2022年11月8日公表）	百万円 280,000	百万円 45,500	百万円 34,100	円 銭 88.04
今回修正予想（B）	272,000	41,000	30,800	79.50
増減額（B-A）	△8,000	△4,500	△3,300	
増減率（%）	△2.9%	△9.9%	△9.7%	
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	266,257	46,348	35,195	88.16

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上収益	195,801	199,786
売上原価	△82,704	△85,449
売上総利益	113,097	114,337
販売費及び一般管理費	△60,323	△65,502
研究開発費	△18,803	△21,682
製品に係る無形資産償却費	△7,255	△7,225
その他の収益	318	523
その他の費用	△655	△30,598
営業利益 (△は損失)	26,380	△10,147
金融収益	1,212	994
金融費用	△734	△709
持分法による投資損失	△1,186	△1,731
税引前四半期利益 (△は損失)	25,673	△11,593
法人所得税費用	△6,377	△4,495
四半期利益 (△は損失)	19,296	△16,088
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目：		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	△960	2,245
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	4,183	6,598
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	284	581
その他の包括利益	3,507	9,424
四半期包括利益合計	22,803	△6,664
四半期利益 (△は損失) の帰属		
親会社の所有者持分	19,349	△16,064
非支配持分	△53	△24
四半期利益 (△は損失)	19,296	△16,088
四半期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者持分	22,898	△6,646
非支配持分	△96	△18
四半期包括利益合計	22,803	△6,664
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	48.39	△41.13
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	48.32	△41.13
<コアベース>		
売上収益	195,801	199,786
コア営業利益	34,553	27,153
コア四半期利益	25,865	21,154
基本的1株当たりコア四半期利益 (円)	64.80	54.19
希薄化後1株当たりコア四半期利益 (円)	64.70	54.11
コア四半期利益の帰属		
親会社の所有者持分	25,907	21,181
非支配持分	△42	△27
コア四半期利益	25,865	21,154

（2）要約四半期連結財政状態計算書

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	56,287	65,558
無形資産	130,217	100,610
金融資産	28,673	31,256
退職給付に係る資産	3,011	2,919
持分法で会計処理されている投資	7,565	9,884
繰延税金資産	3,103	3,032
その他の非流動資産	1,695	2,092
非流動資産合計	230,551	215,351
流動資産		
棚卸資産	37,141	37,310
営業債権及びその他の債権	99,591	94,201
その他の金融資産	1,293	1,098
未収法人所得税	—	1,134
その他の流動資産	8,387	9,827
現金及び現金同等物	83,014	61,220
流動資産合計	229,426	204,790
資産合計	459,976	420,141

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資本</b>		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	8,672	8,684
資本剰余金	9,370	9,609
自己株式	△718	△5,264
利益剰余金	290,477	249,589
その他の資本の構成要素	29,688	38,310
親会社の所有者に帰属する持分合計	337,488	300,927
非支配持分	△645	△663
資本合計	336,844	300,264
<b>負債</b>		
非流動負債		
金融負債	22,023	37,094
退職給付に係る負債	1,077	1,157
引当金	738	765
繰延税金負債	2,526	4,748
その他の非流動負債	948	1,173
非流動負債合計	27,312	44,936
流動負債		
営業債務及びその他の債務	41,185	41,590
その他の金融負債	38,533	23,874
未払法人所得税等	4,198	1,315
引当金	939	1,269
その他の流動負債	10,965	6,893
流動負債合計	95,821	74,941
負債合計	123,133	119,877
資本及び負債合計	459,976	420,141

（3）要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2021年4月1日残高	8,525	8,954	△934	273,238	—	11,075
四半期包括利益						
四半期利益（△は損失）				19,349		
その他の包括利益						△960
四半期包括利益合計	—	—	—	19,349	—	△960
所有者との取引額						
新株の発行	18	18				
自己株式の取得			△12			
自己株式の処分		15	228			
配当金				△11,998		
株式報酬取引		81				
その他				508		△508
所有者との取引額合計	18	114	216	△11,489	—	△508
2021年12月31日残高	8,544	9,068	△718	281,098	—	9,607

	その他の資本の構成要素				親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	新株予約権	合計			
2021年4月1日残高	8,634	170	518	20,398	310,181	△535	309,646
四半期包括利益							
四半期利益（△は損失）				—	19,349	△53	19,296
その他の包括利益	4,225	284		3,549	3,549	△43	3,507
四半期包括利益合計	4,225	284	—	3,549	22,898	△96	22,803
所有者との取引額							
新株の発行			△24	△24	12		12
自己株式の取得				—	△12		△12
自己株式の処分				—	243		243
配当金				—	△11,998		△11,998
株式報酬取引				—	81		81
その他				△508	—		—
所有者との取引額合計	—	—	△24	△533	△11,674	—	△11,674
2021年12月31日残高	12,859	454	494	23,415	321,405	△630	320,775

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2022年4月1日残高	8,672	9,370	△718	290,477	—	8,438
四半期包括利益						
四半期利益（△は損失）				△16,064		
その他の包括利益						2,245
四半期包括利益合計	—	—	—	△16,064	—	2,245
所有者との取引額						
新株の発行	12	12				
自己株式の取得		△30	△17,907			
自己株式の処分		△2	364			
自己株式の消却		△12,998	12,998			
利益剰余金から資本剰余金への振替		12,993		△12,993		
配当金				△12,611		
株式報酬取引		263				
その他				780		△780
所有者との取引額合計	12	239	△4,546	△24,824	—	△780
2022年12月31日残高	8,684	9,609	△5,264	249,589	—	9,903

	その他の資本の構成要素				親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	新株予約権	合計			
2022年4月1日残高	19,950	914	384	29,688	337,488	△645	336,844
四半期包括利益							
四半期利益（△は損失）				—	△16,064	△24	△16,088
その他の包括利益	6,593	581		9,418	9,418	6	9,424
四半期包括利益合計	6,593	581	—	9,418	△6,646	△18	△6,664
所有者との取引額							
新株の発行			△16	△16	7		7
自己株式の取得				—	△17,937		△17,937
自己株式の処分				—	362		362
自己株式の消却				—	—		—
利益剰余金から資本剰余金への振替				—	—		—
配当金				—	△12,611		△12,611
株式報酬取引				—	263		263
その他				△780	—		—
所有者との取引額合計	—	—	△16	△797	△29,916	—	△29,916
2022年12月31日残高	26,543	1,495	368	38,310	300,927	△663	300,264



（4）要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期利益（△は損失）	19,296	△16,088
減価償却費及び償却費	12,543	13,145
減損損失	64	30,512
持分法による投資損益（△は益）	1,186	1,731
金融収益及び金融費用（△は益）	△607	△436
法人所得税費用	6,377	4,495
営業債権及びその他の債権の増減（△は増加）	3,246	6,124
棚卸資産の増減（△は増加）	2,568	611
営業債務及びその他の債務の増減（△は減少）	△20	261
引当金及び退職給付に係る負債の増減（△は減少）	264	348
その他の流動資産の増減（△は増加）	△2,515	△981
未払賞与の増減（△は減少）	△2,549	△3,147
未払金の増減（△は減少）	△778	△2,290
その他	1,451	1,032
小計	40,525	35,317
利息の受取額	222	199
配当金の受取額	493	461
利息の支払額	△156	△305
法人所得税の支払額	△9,896	△7,193
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,188	28,480
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	△823	△586
投資の売却による収入	1,098	1,489
有形固定資産の取得による支出	△14,921	△14,452
無形資産の取得による支出	△5,592	△6,208
持分法で会計処理される投資の取得による支出	△2,969	△3,470
その他	△30	△372
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,237	△23,600
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△11,234
長期借入れによる収入	10,000	15,617
自己株式の取得による支出	△12	△17,907
配当金の支払額	△11,911	△12,506
リース負債の返済による支出	△2,236	△2,602
その他	12	639
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,148	△27,994
現金及び現金同等物の増減額	3,804	△23,114
現金及び現金同等物の期首残高	62,888	83,014
現金及び現金同等物の為替変動による影響	1,140	1,320
現金及び現金同等物の四半期末残高	67,833	61,220

（5）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前題に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の費用）

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

当第3四半期連結累計期間に30,512百万円の減損損失を計上しており、要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書の「その他の費用」に計上しています。

これは主に第2四半期連結会計期間において、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）の製品に係る無形資産、のれん、及び有形固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失30,008百万円（製品に係る無形資産22,296百万円、のれん7,418百万円、有形固定資産294百万円）を認識したことによるものです。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（自己株式の取得）

当社は、2022年5月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議しました。

これにより、2022年5月11日から2022年9月30日までに12,500,000株を総額12,733百万円で取得しました。なお、当該決議に基づく自己株式の取得は、2022年9月8日（約定ベース）をもって終了しました。

また、当社は、2022年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議しました。

これにより、2022年11月9日から2022年12月31日までに4,427,600株を総額4,900百万円で取得しています。

（1）自己株式の取得を行う理由

利益還元の強化と資本効率の更なる向上を図るために行うものです。

（2）取得に係る事項の内容

- |              |   |
|--------------|---|
| ① 取得対象株式の種類  | 当社普通株式  |
| ② 取得しうる株式の総数 | 13,000,000株（上限）<br>（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.4%）      |
| ③ 株式の取得価額の総額 | 130億円（上限）   |
| ④ 取得期間       | 2022年11月9日～2023年3月24日                                 |
| ⑤ 取得方法       | 取引一任方式による市場買付け  |
| ⑥ その他        | 本件により取得した自己株式については、会社法第178条の規定に基づく取締役会決議により、消却する予定です。 |

（自己株式の消却）

当社は、2022年10月4日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却に係る事項について決議し、2022年10月31日に消却を行いました。

なお、今回消却した自己株式は、2022年5月10日開催の取締役会決議に基づき取得した自己株式になります。

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 消却した株式の種類 | 当社普通株式                                  |
| ② 消却した株式の総数 | 12,500,000株<br>（消却前の発行済株式総数に対する割合 3.1%） |
| ③ 消却実施日     | 2022年10月31日                             |

（重要な後発事象）

米州における構造改革の実施

当社は、2023年2月7日開催の取締役会において、収益性改善を目的として米州における医薬品販売事業を最大限合理化する構造改革を実施することを決議しました。

当該米州の構造改革の実施に伴い、2023年3月期第4四半期連結会計期間において約65億円の費用が発生すると現時点では見込んでおり、その他の費用等に計上する予定です。

3. 連結参考資料

(1) 主要製品売上収益

(単位：百万円)

品目名	地域	2022年3月期				2023年3月期			
		第3四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 実績	対前年 伸長率	第3四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 見込	対前年 伸長率
緑内障・高眼圧症治療剤領域									
コソプト配合点眼液	合計	16,397	1.5%	21,752	4.2%	18,093	10.3%	22,225	2.2%
	日本	4,542	△19.9%	5,650	△18.6%	3,709	△18.3%	4,677	△17.2%
	アジア	3,810	17.0%	5,157	15.6%	4,452	16.9%	5,796	12.4%
	EMEA	8,046	11.3%	10,945	15.5%	9,931	23.4%	11,752	7.4%
タプロス点眼液	合計	14,046	0.9%	18,423	2.8%	14,519	3.4%	18,169	△1.4%
	日本	6,655	△5.2%	8,409	△3.4%	6,075	△8.7%	7,673	△8.8%
	中国	723	86.7%	1,170	94.3%	785	8.6%	902	△23.0%
	アジア	1,501	5.5%	2,077	8.9%	1,663	10.8%	2,325	12.0%
	EMEA	5,168	1.5%	6,767	1.1%	5,996	16.0%	7,269	7.4%
タブコム配合点眼液	合計	5,344	15.1%	6,971	15.5%	6,337	18.6%	8,201	17.7%
	日本	2,156	4.4%	2,738	5.1%	2,071	△3.9%	2,629	△4.0%
	アジア	584	49.3%	815	49.3%	777	32.9%	1,090	33.7%
	EMEA	2,604	19.1%	3,417	18.4%	3,489	34.0%	4,483	31.2%
トルソプト点眼液	合計	3,423	△0.2%	4,374	0.2%	3,685	7.7%	4,476	2.3%
	日本	888	△11.3%	1,108	△9.7%	778	△12.3%	973	△12.2%
	アジア	278	7.8%	382	10.9%	320	14.9%	390	2.1%
	EMEA	2,257	4.0%	2,883	3.2%	2,587	14.6%	3,112	7.9%
エイベリス点眼液	合計	2,617	34.7%	3,420	34.8%	3,171	21.2%	4,181	22.3%
	日本	2,541	30.8%	3,304	31.3%	2,994	17.8%	3,836	16.1%
	アジア	76	—	116	475.4%	177	134.4%	289	150.1%
角結膜疾患治療剤領域									
ジクアス点眼液 (ジクアスLX点眼液を含む)	合計	14,249	28.2%	18,835	30.8%	15,701	10.2%	22,793	21.0%
	日本	10,313	7.2%	13,342	8.6%	12,070	17.0%	18,009	35.0%
	中国	2,639	544.0%	4,074	468.5%	2,209	△16.3%	2,760	△32.3%
	アジア	1,298	20.0%	1,419	1.1%	1,422	9.6%	2,024	42.6%
ヒアレイ点眼液	合計	13,247	△10.1%	17,779	△3.5%	11,633	△12.2%	13,822	△22.3%
	日本	5,119	△8.2%	6,466	△7.2%	4,485	△12.4%	5,078	△21.5%
	中国	6,950	△3.5%	8,943	△3.4%	4,956	△28.7%	6,463	△27.7%
	アジア	1,178	△39.6%	2,370	8.0%	2,192	86.1%	2,282	△3.7%
Ikervis (アイケルビス)	合計	4,652	39.4%	5,856	29.3%	5,469	17.6%	7,158	22.2%
	アジア	812	25.5%	1,106	24.2%	1,186	46.0%	1,465	32.4%
	EMEA	3,840	42.8%	4,750	30.6%	4,283	11.5%	5,693	19.9%
Cationorm (カチオノーム)	合計	2,537	7.2%	3,230	5.5%	3,288	29.6%	4,183	29.5%
	アジア	358	80.0%	467	82.5%	341	△4.8%	440	△5.7%
	EMEA	1,631	9.2%	2,078	5.6%	2,141	31.3%	2,564	23.4%
米州	548	△18.6%	685	△18.3%	806	47.2%	1,179	72.2%	
抗アレルギー点眼剤領域									
アレジオン点眼液 (アレジオンLX点眼液を含む)	合計	14,467	14.2%	29,392	△10.3%	12,155	△16.0%	28,840	△1.9%
	日本	14,385	13.5%	29,286	△10.5%	12,040	△16.3%	28,660	△2.1%
	アジア	81	—	106	465.8%	115	41.3%	180	69.3%
Verkazia (ベルカジア)	合計	464	295.7%	633	255.2%	771	66.0%	1,100	73.6%
	EMEA	425	303.8%	585	260.6%	600	41.2%	806	37.8%
	米州	39	224.8%	49	201.0%	170	335.4%	238	389.2%
網膜疾患治療剤領域									
アイリーア硝子体内注射液	合計	55,926	9.8%	72,484	12.5%	54,722	△2.2%	67,237	△7.2%
	日本	55,926	9.8%	72,484	12.5%	54,722	△2.2%	67,237	△7.2%
眼感染症治療剤領域									
クラビット点眼液	合計	9,142	△12.5%	11,712	△7.4%	8,214	△10.1%	10,670	△8.9%
	日本	1,440	△10.4%	1,754	△11.0%	1,022	△29.1%	1,360	△22.5%
	中国	5,559	△15.9%	6,966	△12.1%	4,289	△22.9%	5,816	△16.5%
	アジア	1,229	△12.9%	1,866	8.3%	1,782	45.0%	2,210	18.5%
	EMEA	914	10.6%	1,126	9.4%	1,122	22.8%	1,284	14.1%
医療機器									
レンティス コンフォート	合計	1,059	27.8%	1,422	18.9%	999	△5.6%	1,547	8.8%
	日本	1,059	27.8%	1,422	18.9%	999	△5.6%	1,547	8.8%
ブリザーフロ マイクロシャント	合計	1,167	85.6%	1,612	80.9%	1,734	45.9%	2,385	47.9%
	EMEA	1,167	85.6%	1,612	80.9%	1,707	46.2%	2,363	46.6%
一般用医薬品	合計	7,742	4.8%	9,780	3.9%	8,159	5.4%	10,347	5.8%
	日本	7,281	2.1%	9,185	1.4%	7,326	0.6%	9,331	1.6%
	中国	—	—	7	—	195	—	288	—
	アジア	461	80.1%	588	67.1%	637	38.3%	728	23.9%

(2) 主要通貨為替レート

(単位：円)

通貨	2022年3月期 第3四半期	2022年3月期	2023年3月期 第3四半期	2023年3月期 (予想)
USドル	111.24	112.57	136.22	140.00
ユーロ	130.80	130.75	140.43	140.00
中国元	17.28	17.55	19.86	20.00

※上記の見込等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。通期見込については想定為替レートで換算して表示しています。なお、地域別は主要国地域を記載しています。

（3）開発状況

2023年1月時点

■開発状況一覧表（臨床段階）

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	STN1007603 / DE-076C	春季カタル	自社	米国						2022年5月
				中国						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。欧州で、2018年10月以降順次発売。アジアで、2019年8月にIkervisの適応拡大として承認を取得以降、順次発売。カナダで、2019年11月に発売。米国で、2022年5月に発売。中国で、2022年4月に販売承認を取得。										
ジクアホソルナトリウム	STN1008903 / DE-089C	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	日本						2022年11月
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。持続製剤。日本で、2022年11月に発売。										
シロリムス	STN1010904	フックス角膜内皮ジストロフィ	アクチュアライズと共同開発	米国 フランス インド	(フェーズ2a)					
mTOR阻害作用によりフックス角膜内皮ジストロフィの症状を改善する懸濁点眼剤。2022年5月に米国、フランス、インドでのフェーズ2a試験を開始。（※開発コード（STN1010904）は、フェーズ2試験終了時に当社が独占の実施権を獲得した後に附番予定のコードです。）										
シロリムス	STN1010905	マイボーム腺機能不全	自社	日本	(フェーズ2a)					
mTOR阻害作用によりマイボーム腺の機能を改善する懸濁点眼剤。日本で、2022年8月にフェーズ2a試験を終了。										
タフルプロスト / チモロールマレイン酸塩	STN1011101 / DE-111A	緑内障・高眼圧症	AGCと共同開発	中国						
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体及びβ遮断剤の配合剤。2014年11月、日本で発売。2015年1月以降、欧州で順次発売。2016年4月以降、アジアで順次発売。中国で、2019年1月からフェーズ3試験を実施中。										
エピナスチン塩酸塩	STN1011402	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム	日本						
ヒスタミンH <sub>1</sub> 受容体拮抗作用とメディエーター遊離抑制作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。眼科用クリーム製剤。日本で、2022年10月にフェーズ3試験を終了。										
オミデネパグイソプロピル	STN1011700 / DE-117	緑内障・高眼圧症	UBEと共同開発	米国 日本 アジア						2022年9月 2018年11月 2021年2月
新規メカニズムのEP <sub>2</sub> 受容体作動薬。米国で、2022年9月に販売承認を取得。日本で、2018年11月に発売。アジアでは2021年2月に韓国で発売し、以降、複数国で順次発売。										
sepetaprost	STN1012600 / DE-126	緑内障・高眼圧症	小野薬品工業	米国 日本 欧州						(探索的試験)
FP受容体及びEP <sub>3</sub> 受容体への作動作用（デュアル作動薬）を有する新規メカニズムのプロスタグランジン誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。米国で、2021年12月に追加のフェーズ2試験を終了。日本で、2022年8月にフェーズ3試験を開始。欧州で、2021年9月からフェーズ2試験（探索的試験）を実施中。										
アトロピン硫酸塩	STN1012700 / DE-127	近視	Singapore Health Services社、南洋理工大学	日本 中国 アジア						(フェーズ2/3) (フェーズ2/3)
小児における近視の進行を抑制する非選択的ムスカリン受容体拮抗薬。日本で、2019年8月からフェーズ2/3試験を実施中。中国で、2022年6月にフェーズ2/3試験を開始。アジアで、2020年4月にフェーズ2試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
アトロピン硫酸塩	STN1012701 / SYD-101	近視	Sydnexis社	欧州						
小児における近視の進行を抑制する非選択的ムスカリン受容体拮抗薬。導入元であるSydnexis社により欧州及び米国でフェーズ3試験が実施中。当社は、欧州、中東及びアフリカ地域における独占ライセンス権を保有している。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
緑内障用デバイス	STN2000100 / DE-128	緑内障	自社	日本						2022年7月
				欧州						2019年4月
				アジア						2022年10月
原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的とし、房水の流出を促すインプラント手術用デバイス。日本で、2022年7月に上市（ソフトローンチ）。欧州で、2019年4月に発売。アジアでは、2021年9月以降にシンガポールなどで承認を取得、2022年10月にマレーシアで発売。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ラタノプロスト	STN1013001 / DE-130A (Catioprost)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						2022年9月
				アジア						
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。アジアで、2022年3月にフェーズ3試験を終了。欧州で、2022年9月に販売承認を申請。										

化合物名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
AFDX0250BS	STN1013400	近視	ベーリンガーインゲルハイム	日本						
小児における近視の進行を抑制する選択的ムスカリンM2受容体拮抗薬。特定のサブタイプを選択的に阻害するため、散瞳が抑えられる。日本で、2021年9月にフェーズ1試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ウルソデオキシコール酸	STN1013600	老視	自社	米国		(フェーズ2a)				
				日本						
水晶体の弾力性を向上させることで老視の症状を改善。米国で、2022年12月にフェーズ2a試験を開始。日本で、2022年4月にフェーズ1試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
オキシメタゾリン塩酸塩	STN1013800	眼瞼下垂	RVL Pharmaceuticals社	日本						
直接作用型αアドレナリン受容体作動薬。米国では、RVL Pharmaceuticals社が開発し販売中。日本で、2022年10月にフェーズ3試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ネタルスジルメシル酸塩	STN1013900 / AR-13324	緑内障・高眼圧症	Alcon社*	日本						
				欧州						
				アジア						2023年1月
ROCK (Rhoキナーゼ) 阻害剤。米国では、Alcon社が開発し販売中。日本で、2020年11月からフェーズ3試験を実施中。欧州で、販売承認取得済み。アジアでは順次販売承認を申請しており、タイで2023年1月に販売承認を取得。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ネタルスジルメシル酸塩／ラタノプロスト	STN1014000 / PG-324	緑内障・高眼圧症	Alcon社*	欧州						2023年1月
				アジア						2023年1月
ROCK (Rhoキナーゼ) 阻害剤及びプロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の配合剤。米国では、Alcon社が開発し販売中。欧州で販売承認を取得しており、ドイツで2023年1月に発売。アジアでは順次販売承認を申請しており、タイで2023年1月に販売承認を取得。										

\*2022年11月にAerie社がAlcon社に買収されたことにより、記載を変更しています。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
オロダテロール塩酸塩	STN1014100	ドライアイ	ベーリンガーインゲルハイム	日本		(フェーズ1/2a)				
β2受容体作動薬。日本で2023年1月にフェーズ1／2a試験を開始。										

■2022年度第2四半期決算発表時（2022年11月8日）からの変更点

開発コード	変更点
STN1008903 / DE-089C	日本で、2022年11月に発売。
STN2000100 / DE-128	マレーシアで、2022年10月に発売。
STN1013600	米国で、2022年12月にフェーズ2a試験を開始。
STN1013900 / AR-13324	タイで、2023年1月に販売承認を取得。
STN1014000 / PG-324	ドイツで、2023年1月に発売。タイで、2023年1月に販売承認を取得。
STN1014100	日本で、2023年1月にフェーズ1／2a試験を開始。

（4）設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費並びに研究開発費

■設備投資

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
設 備 投 資 額	16,216	22,244	17,295	25,000

（注） 使用権資産の増加は除いています。

■減価償却費及び償却費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総 額	3,348	4,540	3,802	5,480
製 造 経 費	1,716	2,309	1,743	2,400
販 売 管 理 費	1,198	1,654	1,603	2,300
研 究 開 発 費	434	577	456	780

（注） 製品に係る無形資産償却費、長期前払費用の償却費及び使用権資産の償却費は除いています。

■製品に係る無形資産償却費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総 額	7,255	9,734	7,225	9,330
メ ル ク 無 形 資 産 償 却 費	4,305	5,740	4,356	5,740
E y e v a n c e 無 形 資 産 償 却 費	1,407	1,899	1,149	1,180
プ リ ザ ー フ ロ マ イ ク ロ シ ャ ン ト 無 形 資 産 償 却 費	708	955	867	1,190
I k e r v i s (ア イ ケ ル ビ ス) 無 形 資 産 償 却 費	556	741	597	790
そ の 他	278	398	257	430

■研究開発費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
研 究 開 発 費	18,803	26,377	21,682	29,500
対 売 上 収 益 比	9.6%	9.9%	10.9%	10.8%

※上記の見込等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。